

氏 名	中谷 陽子
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第 6 0 5 号
学位授与年月日	令和 4 年 9 月 2 2 日
審 査 委 員	主査 教授 稲垣 正俊
	副査 教授 岩下 義明
	副査 准教授 鞆嶋 有紀

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

申請者らは、平均出生体重が全国平均より低く、低出生体重児の出生割合が全国平均より高い島根県において、児の出生体重に影響を与える環境要因（栄養摂取状況、ストレス、就労）を明らかにすることを目的として研究を行った。Survey 1 では 26 名の妊婦の妊娠初期・中期・後期に食物摂取頻度調査を実施した。妊娠中の栄養摂取状況と児の出生体重との間に相関は認められなかった。妊娠期間中にストレスを感じている群は、ほとんど感じない群に比べ児の出生体重が有意に少なかった。Survey 2 では、妊娠初期の 84 名の妊婦に行った栄養調査、ストレススコア（日本版社会的再適応評価尺度）、就労状況と児の出生体重との関連について分析を行った。ストレススコアの点数が 300 点以上の高ストレス群と 300 点未満の低ストレス群で児の出生体重に有意差は認めなかった。高ストレス群の方が平均エネルギー摂取量をはじめ多くの栄養素を有意に多く摂取していた。これらの結果から、妊娠初期にストレスを感じていても、推奨エネルギー必要量に近いエネルギーを摂取し、バランスのとれた食事をするにより、児の出生体重へのストレスの影響が少なくなる可能性が示唆された。

本研究の結果は、今後の島根県内の児の低出生体重の改善に資する知見となり、学術的に価値のある研究である。